ナメクジウオの生活史

ナメクジウオの生活史に,種間の間での大きな違いはない.日中はほとんど泳がず,無防備な体で砂に潜って生きている省エネ型の動物で，危険を察して砂から泳ぎ出ても，すぐに砂に潜るか，力尽きて沈んでしまう．摂餌は，鰓で起こした水流でプランクトンや懸濁物を吸い込むだけである．一方，自身は個体密度が高く，底生生物や底生生物を食べる魚類の餌になっている．また，砂の中を動き回り，かき混ぜて貧酸素化を防ぐことで，浅海の海底の生態系を支えている重要な動物でもある．

ほとんど泳がないといっても，7~8 月の産卵期には捕食者の目を避けて，日没後に集団の一部が泳ぎ上がり，3 m くらい上昇して放精，放卵する．受精卵は，25℃では 24 時間後には浮遊幼生となり，流れに乗りながら分散する．約 1 か月後に変態して成体になるとともに着底し，底生生活者になるが，1 年目から毎年産卵する．体長から見た個体群の分布から，寿命は 3 年以上であると推察される．

ナメクジウオの産卵期は水温の影響を受ける．例えば，エルニーニョの影響で海水温が上昇した 1995 年には，繁殖期が 5~6 月と 2 ヶ月ほど早まったが，繁殖期は例年と同じおよそ 2 カ月あまり続いた．

ナメクジウオは， 25℃以下の部屋で人工海水と潜る砂さえあれば，餌がなくても数か月生きている．また，発生途上の卵と孵化後 3 日目までの幼生は，餌を与えずに止水で飼育して研究に使うことができるが，その後の幼生の飼育は難しい．